

**登熟期間が高温で推移しています。  
適切な水管理による稲体の活力維持、適期刈取り、ゆっくり乾燥で、  
白未熟粒や胴割米の発生を防止し、品質の良い米に仕上げましょう。**

## ◎管内展示圃の刈取開始（予測）

射水市内 生育調査圃場（移植）の平均

品種	田植日 (月/日)	出穂期 (月/日)	刈取開始※ (月/日)	籾黄化率(%) 積算気温(℃)
てんたかく	5/2	7/15	8/17頃	80% 900℃～
コシヒカリ	5/12	8/2	9/6頃	85% 950℃～

※刈取開始は、8/5以降の気温が「平年+1℃（高温予想のため）」で推移した場合で予測。

・てんたかくの刈取適期表示札は、8/13から設置します。適期収穫の参考としてください。  
・刈取前には必ず籾黄化率を確認して下さい。

湛水管理の後、収穫の5～7日前まで間断かん水を行うことにより、胴割米の発生が軽減される。

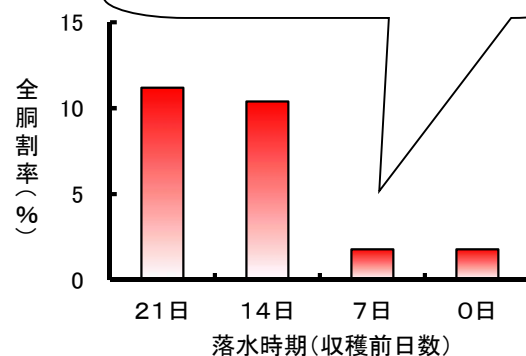


図 落水時期と立毛胴割れの関係（農研）

## 1 刈取りまでの水管理

- ・ 出穂から20日間は湛水管理を行う。  
(高温日が続く場合は2～3日で水の入れ替えを行う。)
- ・ その後は、収穫の5～7日前まで間断かん水を行う。
- ・ フェーン現象等で高温が予想される時は事前に入水する。

湛水管理の効果  
・葉色の維持  
・稲体温度の低下

## 2 適期刈取り

- ・登熟期間が高温で推移していることから、籾黄化率80%（積算気温900℃程度）から刈り始める。
- ・特に、「新大正糯」は、穂発芽が多発しないよう、適期に刈り終える。

## 3 乾燥

- ・ヤケ米の発生防止のため、生籾は、収穫後4時間以上放置しない。
- ・胴割米の発生を防ぐため、通風で2～3時間循環させてから乾燥し、乾燥速度は0.8%/hrを超えないようにする。
- ・籾水分が低い場合(20%未満)や外気温が高い場合は、送風温度は通常より5℃程度低くする。
- ・また、初期の籾水分が高い場合(25%以上)は、送風温度が高いと胴割米の発生が多くなるため、送風温度を低く設定する(45℃以下)
- ・水分が17%以下になったら、水分チェックこまめに行い、14.5～15.0%の水分に仕上げる。

高温条件下での適切な乾燥作業  
(胴割米の発生防止)

- ・乾燥時の気温が高く、湿度が低い場合は籾の水分を随時確認し、乾燥速度が速くなりすぎないように注意する。
- ・張込み量が少ない場合は、乾燥機の設定に従い急激に乾燥が進まないように注意する

### 【青米混入割合による乾燥機の停止水分の目安】

100粒中の青米粒数	停止水分の目安	乾燥機停止後の水分変化
0～5粒	15.0～15.5%	乾く(-0.5%)
6～10粒	14.5～15.0%	ほとんど変わらない
11粒以上	14.0～14.5%	もどる(+0.5%)

## 4 籾摺り・調製

- ・肌ずれ米の発生防止のため、必ず常温まで冷ました後、籾摺りを行う。
- ・1.9mmのふるい目を用い、適正流量を守り、確実に未熟粒を選別する。

### ◎農作業中の熱中症対策について

熱を逃がしやすい衣服の着用や保冷材等により体を冷やす。水分補給や塩分補給、適度な休憩をこまめにとる。

### ◎秋の農作業安全運動（8月20日～10月20日）。余裕のある作業計画の作成と事故防止対策の徹底を。